

住宅ジャーナル

Feb.

2

2026

ウッドテクノロジー JWT

住宅・建築 JJ PRECUT



37 新橋で耐火木造 4 階建てを建設

15 量販店リフォーム：外装工事とクロス工事が増加

政策・法律 JJ

03 省エネ化支援を強化、木材利用の環境貢献「見える化」

木工・建具 e木工



34 「ウッドデザイン賞」木を活用したアイデア商品

07 第5の時代に向け一つでも「個」としての実力を

木材・建材 PRECUT



18 熊本復興需要を経て3Dプリンターの時代へ

新春特集 JJ e木工

26 都市空間の室内・建具づくりに見る 2026 年

インタビュー JJ

40 後倒しが今後も続く / AI 活用と人間力がカギ



エルエルアイ出版

新橋で耐火木造 4 階建てを建築 ホームコネクター工法を採用

(株)スクリムテックジャパン

ホームコネクター等の木材接合金物及び関連商品の販売を行っている(株)スクリムテックジャパン（本社：福岡県筑紫野市、河野泰之社長）は、施工を行っている(株) Lien 建築事務所の協力の元、新橋にて建築中の「1 方向ラーメン 4 階建て耐火木造ビル（ホームコネクター工法）」の現場見学会を 11 月 26 日に開催した。

見学会 2 回に分けて行われ、各回定員 20 名、計 40 名が参加。会場でホームコネクターを用いた木造 1 方向ラー



4 階建て狭小ビルで耐火木造

メン構造の説明が行われた後、4 階建木造ビルの施工状況を見学した。

道路側から見た外観は、4 階に約 15㎡のバルコニーを設けているため、3 階建てのように見える。現場は内装工事中で、当日は 1 階の床組み工事が行われていた。2025 年 4 月の改正省エネ法・木構造基準の見直しの影響により、審査が伸びて想定よりも着工が遅れ、工法も変更し、1 方向ラーメンを採用、9 月から急ピッチで工事で進められている。

DATA

名称：(仮称) 新橋店舗

所在地：東京都港区新橋

用途：商用施設

構造：木造 4 階建て（耐火構造）

1 方向ラーメン

敷地面積：59.98㎡

延床面積：147.72㎡

1 階床面積：40.74㎡

2 階床面積：40.74㎡

3 階床面積：40.74㎡

4 階床面積：25.50㎡

建蔽率：67.93%

容積率：238.08%

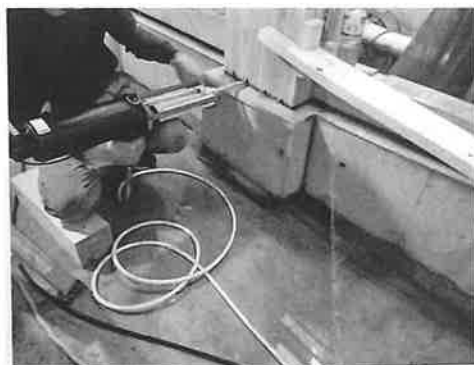
意匠設計：木村雄介建築設計事務所

構造設計：渡邊須美樹、ウッドブロック(株)

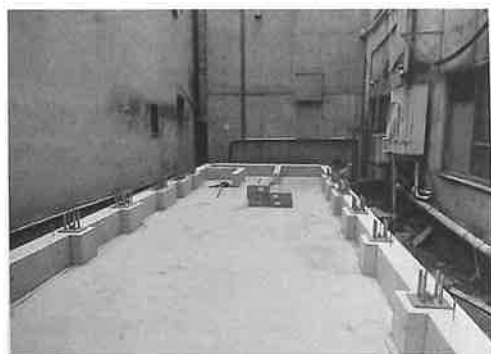
施工：(株) Lien 建築設計



柱脚納まり



エポキシ樹脂を注入



基礎施工状況



2階～4階床梁接合

木造耐火構造で外壁は内壁・外壁共に強化石膏ボード2枚張りで被覆されている。告示仕様に則り、外壁・間仕切り壁・柱・床・梁・屋根・階段全て強化石膏ボード2枚張り。柱は180×240mm欧州赤松構造用集成材、土台は120×120mm桧構造用製材、梁は120×330mm及び180×390mm欧州赤松構造用集成材を用いている。

ホームコネクターについて

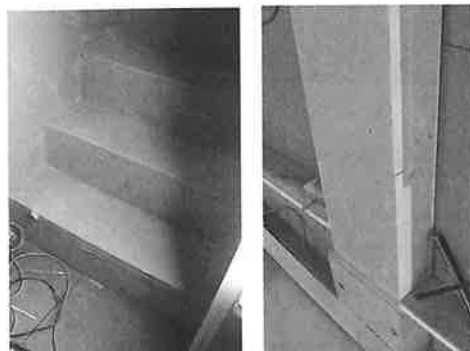
ホームコネクター工法は、1985年（昭和60年）に㈱豊夢の後藤泰男氏が発案して開発が進められ、1992年に特許を出願。1993年に自社社屋（木造3階建て）で初めて採用されて以降、日本におけるGIR（グルードイン ロッド＝接着剤の中の棒）の代表的な工法の一つとしてラーメン構造、

CLT構造体、トラス、混構造などの様々な木造建築の構造で採用されている。木材に穿孔し、そこに挿入された棒状の接合具との空隙に注入・充填された接着剤の硬化により、応力を接着剤の付着力と接合具を介して伝達して接合耐力を発生させる接合方法で、接合部に接着剤を注入・硬化させる分だけ、一般的な金物工法よりも手間がかかるとされているが、様々な優位性もあり、住宅・非住宅を問わず、幅広く使用できる接合技術で、中層大規模木造建築物の実績も多い。

一方向ラーメンとしては、2020年5月に（一財）日本建築センターで「ホームコネクター1方向ラーメンモデル」として工法等の評定（BCJ）を取得している。



梁材の揚重作業



柱・階段も全て強化石膏ボード2枚張り



耐火被覆された室内（3階）



見学時は床組み工事中（1階）

2025年に開催された大阪・関西万博では、環境配慮型の木造建築で多数採用され、ウズベキスタン館、バーレーン館、スペイン館、ポーランド館、三菱未来館、マネキ食堂、風の広場トイレでホームコネクターが採用された。国内外の評価も高く、採用の4パビリオンからは、3館が金賞、1館が銀賞の榮譽に輝いた。

TEC－Sについて

今回の物件は狭小ビルのため、エポキシ樹脂を注入した通常のホームコネクター工法を採用しているが、同社では、現場接着を不要とした「TEC－S」の普及にも取り組んでいる。

TEC－S※とは、接合部に、タフネスコネクター（靱性型GIR）とキューブコネクター（箱型のジョイント金物）を使用した接合システムのこと。ナツ

ト締めするだけの乾式の接合方式でGIRにおける現場接着を不要としており、短工期に寄与できる。木造ビル（4階建てクラス）での利用も想定している。高性能な木質ラーメン構造を実現し、施工は、ナット締めだけの乾式施工で、建て方に要する工数を大幅に削減することが可能。

柱・梁材のGIR及びタフネスコネクター、キューブコネクターはあらかじめ工場で取り付けて出荷する。実験によると従来品のホームコネクターでは脆性破壊^{ぜい}が起きるが、タフネスコネクターは、金物が20mm延びて降伏して切れるため、靱性に優れていることが分かっている。

令和4年7月に（一財）日本建築センターで「タフネスコネクター1方向ラーメンモデル」で工法等の評定（BCJ）を取得している。